国語科（国語総合・古典）学習指導案

指導者　田中琢斗
教科指導員　八橋崇

一　日　時　　平成三十年一月　　日（　曜日）第　時間目（50分）

二　学　級　　第一学年五組（四十名）

三　単元名　　古典を比較し、相違点を見付け、作者の意図を考えよう

四　単元の目標

（1）文章の構成や展開を確かめ、内容を評価し、作者の意図をとらえようとしている。（関心・意欲・態度）

（2）文章の構成や展開を確かめ、内容を評価し、作者の意図をとらえている。（読む能力）（「C読むこと」（1）のエ）

（3）文語のきまりを理解する。（知識・理解）（「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（1）のアの（イ））

五　取り上げる言語活動と教材

（1）言語活動：文章を読み比べ、内容や表現について相違点を見付け、作者の意図を考える。

（2）教材：『竹取物語』（東京書籍『国語総合　古典編』）
　　馬淵和夫他注『今昔物語集』（小学館『日本古典文学全集２４』昭和５１年３月３１日）

六　単元の具体的な評価規準

（1）文章を比較し相違点を見付けることで、作者の意図や主張をとらえようとしている。（関心・意欲・態度）

（2）文章を比較し相違点を見付けることで、作者の意図や主張をとらえている。（読む能力）

（3）古文を読む際のきまりや文法を理解している。（知識・理解）

七　指導観

（1）単元観：物語文学の導入に適したこの教材で、作者の意図をくみ取る力を高めさせたい。

（2）学習者観：高校で古典に取り組んだ期間はまだ短いので、長文は苦手意識があるようである。

（3）教材観：長い文章だが内容は周知なので、取り組みやすく、読解の基礎技術を高めることができる。

八　単元の指導計画（配当時間７時間）

次 時間	学　習　活　動	言語活動に関する指導上の留意点	◇評価規準、◆評価方法、＊努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第１次 ４時間	・『竹取物語』「天の羽衣」を読解する。	・物語の展開に注意して読解させる。	◇（3） ◆記述の確認（ノート） ＊予習の仕方（訳や書き下し文）を改善させる。
第２次 ３時間	・ジグソー法で『今昔』と本文を比較し、内容や表現の違いから作者の意図を考える。 ・発表資料を作り、発表する。 ・再度『竹取』本文を確認する。	・説話としての『今昔』と、物語としての『竹取』を比較させ、違いを感じさせる。 ・他班の意見を参考にできるように、よく聞かせる。 ・相違点から『竹取』本文の特異性を確認する。	◇（2）（1） ◆記述の確認（ワークシート） ＊訳と登場人物の心情を確認させる。

九　本時の目標

二つの文章の内容を読み取り、内容の違いを明らかにする。（読む能力）

十　本時の評価規準

二つの文章の内容を読み取り、内容の違いを明らかにできている。（読む能力）

十一　研究授業の前時（全７時間中の５時間目）の指導

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入（５分）	・本時の学習内容を知る。	① 前時までの読解を確認する。	① 授業で行った本文の読解を確認させる。
展開（40分）	・四人班（発表班）に分かれ、それぞれ担当を確認する。 ・まず個人で読んだ後、ＡからＤの担当ごとに三・四人で集まり、担当箇所の読解、比較をする。 ・発表班に戻り、それぞれの担当箇所について報告しあう。 ・相違点から、本作の特異性や筆者の意図を考える。	② 班や担当は指示に従う。 ③ まず個人で、担当ごとに、本文と『今昔』の該当箇所を読み比べ、相違点を考える。その後、担当班を形成する。 ④ 互いの担当について知る。話し合ったことは、次回のためにワークシートに残しておく。 ⑤ 一つの担当からでもよいし、全体を踏まえたものでもよいので考える。	② 速やかに移動させる。 ③ 相違点を見つけさせたら、なぜ作者はそのような表現をしたかまで考えさせる。 ④ それぞれエキスパートに説明させる。周りも何か考えたことがあれば付け加えさせる。 ⑤ 筆者の意図等はそう思った根拠と照らし合わせて考えさせる。
終結（５分）	・振り返りをし、次時の内容を知る。	⑥ 比較により、『竹取』への理解が深まったことを確認する。	⑥ 読解するときは対象の文章を読み深めるという方法だけでなく、比較するという方法もあることを伝える。 ◇（２）（１） ◆ワークシート（班・個人）の確認

十二　御高評

ワークシートＡ「出会い」

一年　　組　　番　（　　）

一、『竹取物語』と『今昔物語集』で同じ部分はどこだろう。

二、それぞれで違う部分はどこだろう。

三、筆者はなぜ、違いがあるように描いたのだろう。

ワークシートB「姫がもたらしたものと名付け」

一年　　組　　番　（　　）

一、『竹取物語』と『今昔物語集』で同じ部分はどこだろう。

二、それぞれで違う部分はどこだろう。

三、筆者はなぜ、違いがあるように描いたのだろう。

ワークシートC「かぐや姫の昇天」

一年　　組　　番　（　　）

一、『竹取物語』と『今昔物語集』で同じ部分はどこだろう。

二、それぞれで違う部分はどこだろう。

三、筆者はなぜ、違いがあるように描いたのだろう。

ワークシートD「天皇の動きと結末」

一年　　組　　番　（　　）

一、『竹取物語』と『今昔物語集』で同じ部分はどこだろう。

二、それぞれで違う部分はどこだろう。

三、筆者はなぜ、違いがあるように描いたのだろう。

班

「A」

〈特筆すべき点〉

〈その理由・筆者の意図〉

「B」

〈特筆すべき点〉

〈その理由・筆者の意図〉

「C」

〈特筆すべき点〉

〈その理由・筆者の意図〉

「D」

〈特筆すべき点〉

〈その理由・筆者の意図〉

国語科（国語総合・古典）学習指導案

指導者　田中琢斗
教科指導員　八橋崇

一　日　時　　平成三十年一月　　日（　曜日）第　時間目（50分）
二　学　級　　第一学年五組（四十名）
三　単元名　　古典を比較し、相違点を見付け、作者の意図を考えよう
四　単元の目標
（1）文章の構成や展開を確かめ、内容を評価し、作者の意図をとらえようとしている。（関心・意欲・態度）
（2）文章の構成や展開を確かめ、内容を評価し、作者の意図をとらえている。（読む能力）（「C読むこと」（1）のエ）
（3）文語のきまりを理解する。（知識・理解）（「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（1）のアの（イ））
五　取り上げる言語活動と教材
（1）言語活動：文章を読み比べ、内容や表現について相違点を見付け、作者の意図を考える。
（2）教材：『竹取物語』（東京書籍『国語総合　古典編』）
　　馬淵和夫他注『今昔物語集』（小学館『日本古典文学全集２４』昭和５１年３月３１日）
六　単元の具体的な評価規準
（1）文章を比較し相違点を見付けることで、作者の意図や主張をとらえようとしている。（関心・意欲・態度）
（2）文章を比較し相違点を見付けることで、作者の意図や主張をとらえている。（読む能力）
（3）古文を読む際のきまりや文法を理解している。（知識・理解）
七　指導観
（1）単元観：物語文学の導入に適したこの教材で、作者の意図をくみ取る力を高めさせたい。
（2）学習者観：高校で古典に取り組んだ期間はまだ短いので、長文は苦手意識があるようである。
（3）教材観：長い文章だが内容は周知なので、取り組みやすく、読解の基礎技術を高めることができる。
八　単元の指導計画（配当時間7時間）

次 時間	学　習　活　動	言語活動に関する指導上の留意点	◇評価規準、◆評価方法、＊努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第1次 4時間	・『竹取物語』「天の羽衣」を読解する。	・物語の展開に注意して読解させる。	◇（3） ◆記述の確認（ノート） ＊予習の仕方（訳や書き下し文）を改善させる。
第2次 3時間	・ジグソー法で『今昔』と本文を比較し、内容や表現の違いから作者の意図を考える。 ・発表資料を作り、発表する。 ・再度『竹取』本文を確認する。	・説話としての『今昔』と、物語としての『竹取』を比較させ、違いを感じさせる。 ・他班の意見を参考にできるように、よく聞かせる。 ・相違点から『竹取』本文の特異性を確認する。	◇（2）（1） ◆記述の確認（ワークシート） ＊訳と登場人物の心情を確認させる。

九　本時の目標

各班の捉えた相違点や意図を自分の考察と比べ、『竹取物語』への理解を深める。（読む能力）

十　本時の評価規準

各班の捉えた相違点や意図を自分の考察と比べ、『竹取物語』への理解を深めている。（読む能力）

十一　研究授業の前時（全7時間中の7時間目）の指導

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 （5分）	・本時の学習内容を知る。	① 前時に行った本時の準備を確認する。	① 原稿を確認する時間を用意する。
展開 （35分）	・班ごとに発表していく。 ・発表を聞く際はルーブリックにしたがって評価を行う。 一分発表 一分評価 で交代していく。	② 前時に作った原稿をもとに、発表する。 ③ 恣意的な評価にならないよう、ルーブリックにしたがう。 ④ 時間は早すぎず、遅すぎずを考えて発表する。	② 各班が原稿と別に作ったレジュメは全班分を配布しておく。 ③ ルーブリックは原稿を作成する時点で通知し、発表前にも再度通知する。 ④ 特に早く終わることがないように伝える。
終結 （10分）	・振り返りをし、次時の内容を知る。	⑤ 比較により、『竹取物語』への理解が深まったことを確認する。	⑥ 物語と説話は描く内容も目的も違うことを理解させる。 ◇（2）（1） ◆ワークシート（発表原稿）、評価シートの確認、

十二　御高評

評価シート

一年　　組　　番　氏名（　　）

班	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
A										
B										
計										
良かったところ										

ルーブリック

発表のルール　①発表は「発表する（一分）」→拍手→「各班評価する（一分）」で行います。※時間はあくまで目安です。多少ズレても問題ありません。

②発表を聞くときは、発表してくれている生徒の邪魔にならないよう、「聞く姿勢」に気をつけてください。

③自分の班が発表した直後の「評価する時間」は、自分の発表を振り返って、評価シートに自己評価を記入しましょう。

評価は、左のルーブリック（評価基準）を参照して行おう！

レベル／観点	5	3	1
（A）内容の工夫	**本文に根拠があり**、妥当だと思われる**相違点や作者の工夫**を見つけることができている。	根拠として確かに正しいとは言えないが、**納得はできる発表**をしている。	作者の工夫が見付けられない。もしくは、全く根拠のない発表になっている。
（B）表現の工夫（レジュメ、発表の二点から鑑みて）	声の大きさやレジュメの読みやすさ等に留意し、見つけた**相違点や作者の工夫がよく伝わる表現の工夫**がされている。	発表したいことの**内容が伝わる最低限**の発表ができている。もしくは、レジュメがある程度見やすいものになっている。	聞き取りやすい発表ができていない。また、レジュメが読みにくい。

【　　】班　　発表原稿シート

① それでは（　　）班の発表を始めます。

② 私たちは二作品の相違点や意図について、以下のように考えました。

※発表時間は一分です。一分は話せるよう、右のボックスを十分に埋めましょう。

③ 以上で発表を終わります。ありがとうございました。

④ 拍手

（生徒は6/7限目に、原稿以外に、発表用レジュメも作ります。）

国語科（国語総合・古典）　指導資料

指導者　田中琢斗

一　日　時　　平成三十年二月九日（金曜日）第五時間目（50分）

二　学　級　　第一学年五組（四十名）

三　単元名　　古典を比較し、相違点を見付け、作者の意図を考えよう

四　単元の目標

（1）文章の構成や展開を確かめ、内容を評価し、作者の意図をとらえようとする。（関心・意欲・態度）

（2）文章の構成や展開を確かめ、内容を評価し、作者の意図をとらえる。（読む能力）（「C読むこと」（1）のエ）

（3）文語のきまりを理解する。（知識・理解）（「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（1）のアの（イ））

五　取り上げる言語活動と教材

（1）言語活動：文章を読み比べ、内容や表現について相違点を見付け、作者の意図を考える。

（2）教材：『竹取物語』（東京書籍『国語総合　古典編』）
　　馬淵和夫他注『今昔物語集』（小学館『日本古典文学全集２４』昭和５１年３月３１日）

六　単元の具体的な評価規準

（1）文章を比較し相違点を見付けることで、作者の意図や主張をとらえようとしている。（関心・意欲・態度）

（2）文章を比較し相違点を見付けることで、作者の意図や主張をとらえている。（読む能力）

（3）古文を読む際のきまりや文法を理解している。（知識・理解）

七　指導観

（1）単元観：物語文学の導入に適したこの教材で、作者の意図をくみ取る力を高めさせたい。

（2）学習者観：高校で古典に取り組んだ期間はまだ短いので、長文は苦手意識があるようである。

（3）教材観：長い文章だが内容は周知なので、取り組みやすく、読解の基礎技術を高めることができる。

八　単元の指導計画（配当時間７時間）

次 時間	学　習　活　動	言語活動に関する指導上の留意点	◇評価規準、◆評価方法、 ＊努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第１次 ４時間	・『竹取物語』「天の羽衣」を読解する。	・物語の展開に注意して読解させる。	◇（3） ◆記述の確認（ノート） ＊辞書を活用させるなど予習の仕方を改善させる。
第２次 ３時間	・ジグソー法で『今昔』と本文を比較し、内容や表現の違いから作者の意図を考える。 ・発表資料を作り、発表する。 ・再度『竹取』本文を確認する。	・説話としての『今昔』と、物語としての『竹取』を比較させ、違いを感じさせる。 ・他班の意見を参考にできるように、よく聞かせる。 ・相違点から『竹取』本文の特異性を確認する。	◇（2）（1） ◆記述の確認（ワークシート） ＊読解が深まっていない生徒は比較的容易な内容のワークシートを担当させる。

九　本時の目標

各班の考察を自分の考察と比べ、作者の意図を考えることで『竹取物語』への理解を深める。（読む能力）

十　本時の評価規準

各班の考察を自分の考察と比べ、作者の意図を考えることで『竹取物語』への理解を深めている。（読む能力）

十一　研究授業の前時（全7時間中の7時間目）の指導

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 （5分）	・本時の学習内容を知る。	① 前時に行った本時の準備を確認する。	① 原稿を確認する時間を用意する。
展開 （35分）	・班ごとに発表していく（十班）。 ・発表を聞く際はルーブリックにしたがって評価を行う。 一分半発表 一分評価 で交代していく。	② 前時に作った原稿をもとに、発表する。 ③ 恣意的な評価にならないよう、ルーブリックにしたがう。 ④ 時間は早すぎず、遅すぎずを考えて発表する。	② 各班が原稿と別に作ったレジュメは全班分を配布しておく。 ③ ルーブリックは原稿を作成する時点で通知し、発表前にも再度通知する。 ④ 与えられた時間を有効に使えるよう、発表の仕方や内容を工夫させる。
終結 （10分）	・振り返りをし、次時の内容を知る。	⑤ 比較により、『竹取物語』への理解が深まったことを確認する。	⑥ 物語と説話は描く内容も目的も違うことを理解させる。 ◇（2）（1） ◆ワークシート（発表原稿）、評価シートの確認、

十二　ルーブリック

評価は、左のルーブリック（評価基準）を用いて行った。

レベル／観点	（A）内容の工夫	レベル／観点	（B）表現の工夫（レジュメ、発表の二点から鑑みて）
5	**本文から根拠を複数個見つけ**、そこから**作者の意図**を考えることができている。	3	**一番後ろの人まで聞こえる**発表ができていて、重要部分で**声を大きくしたり、間を置く等発表の工夫**がある。かつ、レジュメの五個の**四角が全て埋まっている。**
3	根拠が正しいかどうかは別として、**本文中の根拠を一つでも明らかにした**うえで、**根拠と結びつけて作者の意図を発見**している。	2	**一番後ろの人まで聞こえる**発表ができている。かつ、レジュメの五個の**四角が全て埋まっている。**
1	根拠との結びつきはないが、作者の工夫が一つは見付けられている。	1	一番後ろの人が聞き取れない発表をしている。もしくは、レジュメの四角がが全て埋まっていない。

十三　反省

授業を行う上で、時間内に予定した作業を終えること、設定した目標に到達することは同義ではないと強く思わされた。つい予定したことの完了に意識を集中させてしまう傾向にあるが、重要視すべきは「生徒の学習が深まったかどうか」である。

今回の実践においては班の発表と評価を円滑に回すことに終止してしまった。生徒の学びが深まったから、次の段階にすすむ、という形式に変えていかなくてはならない。

この授業に限らず、一年間を通して、初任者研修の一環でアクティブ・ラーニングを意識した授業を行ってきた。アクティブ・ラーニングにおいて重要視される「活動」が、その本質からずれることのないよう、授業改善をしていく必要がある。

本当に今昔の作者が竹取を読んで書いたのかは明らかになっていないけれど、私は二つを比較してみて、竹取を原作として今昔を書いているように思えました。

2つの作品をこういった視点から比較して読むのも、面白いと思いました。良い授業だったと思います。

敬語や助動詞の使い方で、物語の印象が変わってくるということが分かったし、作品がつくられた時代や背景も作品読解に大きく関わってくると感じることができました。

私は授業外の範囲を担当したけど、姫に対する天皇の思いは変わらず一途なままだったので、姫は相当な魅力な持ち主なのだと改めて思いました。

一番心に残っている所は姫を天人の王に対してでも嘘をついて守る翁の姿です。「竹取物語」は登場人物の感情や敬語が含まれていることが「今昔物語集」と比べて細やかに書かれていることを強く感じました。これからも敬語の勉強をして身につけたいです。